

## 平成28年度自己評価の分析

### 肯定的回答 (%)

- 【設問 1】 生徒 85 ○8割を超える生徒が学校生活は楽しいと答えており、職員・保護者の認識も一致している。生徒・保護者とも、1学期より若干高くなり、ほぼ同様の割合で肯定的な回答が得られている。しかし、生徒の割合については保護者、職員よりも下回っている。活動によっては、苦手と感じているものもあるようである。苦手なものでも前向きに考えて取り組めるよう改善をしていく必要がある。
- 楽しい場 保護者 93  
職員 97
- 【設問 2】 生徒 89 ○生徒・保護者・職員ともに肯定的な認識を持っている。新校舎は1年目で新しく便利で使いやすい。しかし、まだ慣れずに使いづらいなどの考えがあるようである。また、校舎周辺も工事中であり、工事の音が目になったり、駐車場が使いづらいなどの意見も出ている。今後徐々に整備されていくが安全な使い方、有意義な使い方を考えていく必要がある。
- 学校施設 保護者 95  
職員 90
- 【設問 3】 生徒 81 ○肯定的な回答が8割を超えている。学校だよりの「刮目」を毎週一回程度発行しており、生徒の活躍や学校の様子がわかりやすいという評価をいただいている。しかし、部活動の連絡についての要望や学年、学級の様子をもっと詳しく知りたいといった意見も少なくない。保護者や生徒に対してより積極的に情報発信をしていく必要がある。
- 情報発信 保護者 85  
職員 100
- 【設問 4】 生徒 59 ○生徒・職員は1学期より下回った結果となっている。保護者は上回っているが6割程度である。地域交流向上に向け、やっさまつり後の清掃活動や東金市のクリーン作戦に参加するなど改善に向けての取り組みも行われている。今後も地域の方々との交流を深められるような取り組みを工夫していく必要がある。
- 地域交流 保護者 64  
職員 68
- 【設問 5】 生徒 80 ○生徒・保護者とも若干ではあるが1学期を上回った。職員は100%となっているが生徒の学力の向上をさらに進めるために授業改善が必要である。授業規律を徹底し、生徒が主体的に授業に取り組めるような工夫を行っていく必要がある。
- 分かる 保護者 78  
授業 職員 100
- 【設問 6】 生徒 76 ○1学期と比べると生徒・保護者とも若干上回ったものの、7割から8割である。それに対して職員は100%となっており、生徒・保護者との間に認識のずれが見られる。生徒や保護者の目線で様々なことについて検討し直す必要がある。定期的な相談活動だけでなく、毎日の生徒や保護者との関わりを大切にして、信頼を築いていくことを重要視していかなければならないと考える。
- 誠実な 保護者 84  
相談活動 職員 100
- 【設問 7】 生徒 64 ○生徒は、前回は5%下回り、保護者は変わらなかった。職員は100%となっている。職員との認識の差は大きいと言える。生徒・保護者との対話を丁寧に行い、生徒理解に努める必要がある。評価においても客観性を高めるとともに、次への意識付けとなるよう工夫をしていく必要がある。
- 生徒理解 保護者 75  
公平評価 職員 100

【設問 8】生徒 86 ○生徒・保護者・職員とも8割以上が肯定的な意見である。施設が新しく  
教育環境 保護者 91 なったことで新たな掲示物の作成を情報担当の職員を中心に丁寧に行っ  
職員 94 ている。今後も生徒の生活に有効な環境整備に努めていく。特に安全対  
策を充実するように努めていくことが大切であるとする。

【設問 9】生徒 84 ○生徒・保護者は、1学期を上回っている。職員は10%下回った結果と  
授業への 保護者 87 なった。授業への取り組みは概ね良好ではあるものの、職員としては苦が  
取り組み 職員 87 手な教科にもじっくりと粘り強く取り組んでほしいという思いが結果に  
表れている。今後も分かりやすい授業を展開し、生徒が学習課題にじっ  
くりと取り組み、学力向上へつながるよう指導していく必要がある。

【設問 10】生徒 96 ○生徒と保護者・職員の認識の差が大きい。2学期に地域の方々からの苦  
交通ルール 保護者 71 情が続き、交通指導を強化してきた。2学期中旬からは苦情連絡もなく、  
を守る 職員 74 改善して来た様子も見られるが、一部の生徒が学校から離れるとルール  
違反をしてしまうような現状も見られる。今後も保護者等の協力を得て、  
安全な登下校となるよう指導をしていきたい。

【設問 11】生徒 86 ○生徒・保護者・職員の認識に差が見られる。1学期より若干、結果は上  
元気な 保護者 65 昇しているが、保護者・職員とも課題は多いと感じている。場に応じた  
あいさつ 職員 52 あいさつが定着するよう指導を徹底していく必要がある。

【設問 12】生徒 94 ○生徒・保護者・職員とも9割を上回った結果となっている。3年生は  
身だし 保護者 90 進路に向けて、1・2年生はマナー検定の取り組みを通して、意識が  
なみ 職員 100 高まったようである。今後も清潔感のある中学生らしい身だしなみで  
生活していけるよう指導を継続していく。

【設問 13】生徒 91 ○生徒の肯定的な回答は9割を越えているが、職員は5割にとどまってい  
清掃活動 保護者 85 る生徒がイメージする清掃と職員が期待する清掃の取り組みについての差  
職員 52 が大きいようである。公共心や勤労の精神を高められるような取り組み  
となるよう指導していく必要がある。

【設問 14】生徒 59 ○生徒・保護者・職員とも1学期を下回る結果となった。運動会や合唱  
保護者 保護者 52 コンクールは、参加しやすいためか比較的多くの保護者の参加が見ら  
の参加 職員 77 れた。親子奉仕作業や授業参観などにおいては、参加しやすい工夫が必要  
であると感じる。今後もさらに開かれた学校づくりを目指した学校運  
営を心がけていく必要がある。